



自動車を解体し中古部品や資源に分類する(川越市の本社工場)

車リサイクル 海外展開加速

中国に解体工場

シンガポールに営業拠点

CRS埼玉 効率化へ分業体制



自動車リサイクル業のCRS埼玉(埼玉県川越市、加藤一臣社長)は海外事業を拡大する。来年8月の稼働を目指して市場が拡大中の中国に工場を新設するほか、シンガポールに営業拠点を設ける。すでにマレーシアとニュージーランドに拠点を設けており、自動車の解体やリサイクル、中古部品販売の分業体制を構築し、事業のグローバル化と効率化を進める。

中国に建設するのは自にも貿易事務の拠点を設置する。新興国の成長と投資会社や国内の同業2社との計3社と共同出資し、上海市の西約100キロの江蘇省張家港市に造る。約6億円を投じ、月間1万台の処理を目指す。

シンガポールには今秋、同社は自動車解体事業を統括させる。国内での解体・リサイクル

し、エンジンやドアなどを修理して中古部品として販売するほか、鉄くずや樹脂を分別し、資源化して販売するノウハウを持つ。これらを生かし、自動車リサイクル市場の

市)と日商岩井(現・双日)の共同出資で04年に設立。2011年3月期

勃興期にある中国にいち早く進出し、地位を確立したい考え。

現在、川越市内に月間3000台の自動車を解体、リサイクルする工場を保有する。ただ、国内では廃車が減少傾向にあるうえ、解体、分別作業の人員費がかさむため、中国進出を決めた。

中国の自動車市場では現在、廃車は年約40万台だが、新車販売は年約1800万台あり、5〜10年後に廃車が急増するとみている。中国新工場では日本国内や米国などからも廃車を持ち込み、リサイクルする考えだ。

廃車から得られた中古部品の市場はアジアや新興国で拡大しており、マレーシアが国際的な取引拠点となっている。同社はマレーシア子会社を中古部品の取り扱い拠点とし、日本や中国の工場から集めた部品の販売も拡大する。

同社はリサイクル事業の青木商店(埼玉県新座